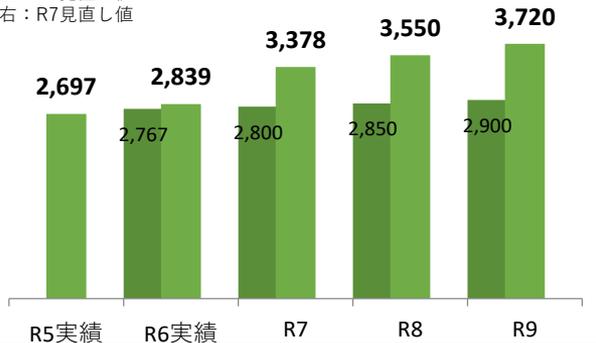


第4次中期経営計画の見直しのポイント①

救急車搬送件数（件）

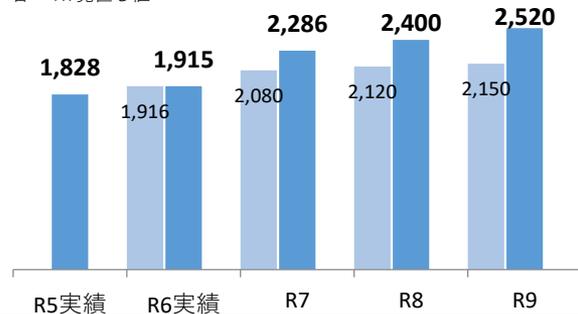
左：R6見直し値
右：R7見直し値



- R6は計画値とほぼ同値。
- R7は日中の救急受入体制を強化したほか、整形外科病棟再開の効果で大幅に増加。
- R8以降も取組を継続するため、5%の伸び率で設定する。

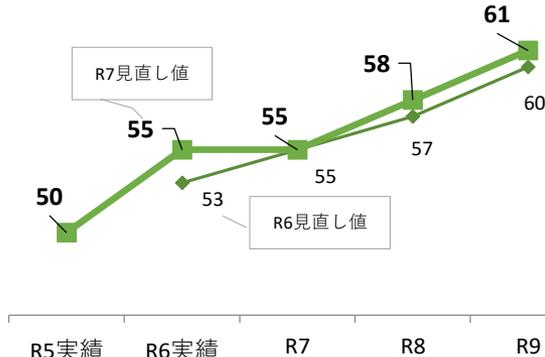
手術件数（件）

左：R6見直し値
右：R7見直し値



- R6は計画値とほぼ同値。
- R7は血管外科新設と整形外科病棟再開の効果で件数は大幅に増加。
- R8以降も増加が期待できるので、5%の伸び率で設定する。

紹介率（%）



- 地域クリニックへの訪問強化などによりR6は2ポイント計画値を上回った。
- R7は計画値とほぼ同値の見込み。
- R8以降もクリニック訪問の継続など地域医療連携を強化することし計画値を上方修正する。

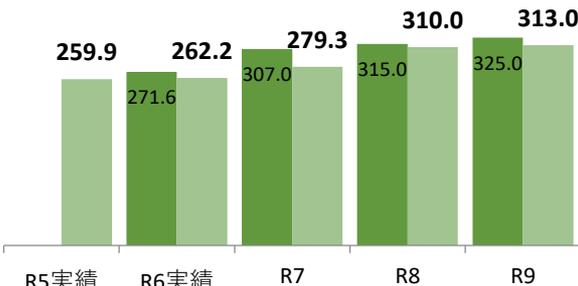
逆紹介率（%）



- R6は計画値を上回った。
- R7も計画値を上回る見込み。
- 大幅に増加したのはコンサルの助言により診療情報提供料の算定件数が増加したことによるもの。
- R8以降の計画を上方修正する。

1日当たり入院患者数（人）

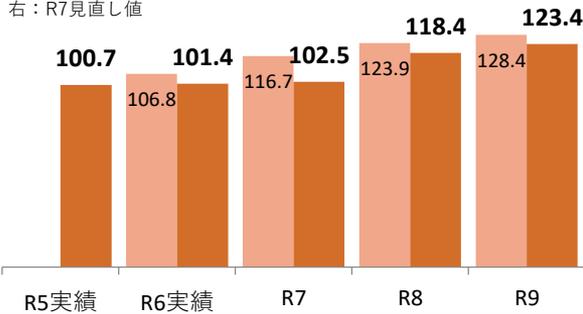
左：R6見直し値
右：R7見直し値



- 血管外科と整形外科の患者数は順調に増加しているものの他診療科で減少。
- 救急応需率の向上等により、入院患者数を増加させ、R9～R14で段階的に増加させ328人／日（90%稼働率）を目指す。

医業収益（税抜き）（億円）

左：R6見直し値
右：R7見直し値



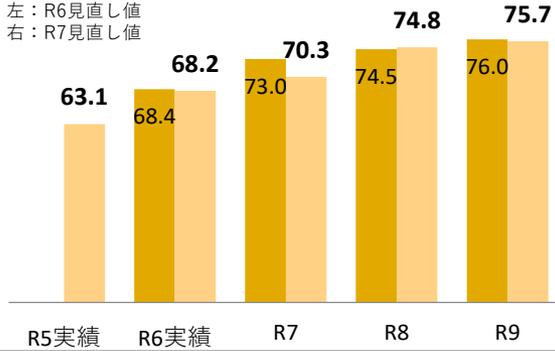
- 入院患者数の増や診療報酬改定を踏まえた単価の増の取組により、医業収益を増加させる。
- 厳しい状況だが、計画を下方修正しながらもR9では123.4億円の医業収益を確保する。

※医業収益には一般会計負担金（医業外収益）のうち救急医療確保経費と保健衛生行政事務経費を加えている

第4次中期経営計画の見直しのポイント②

職員給与費（税抜き）（億円）

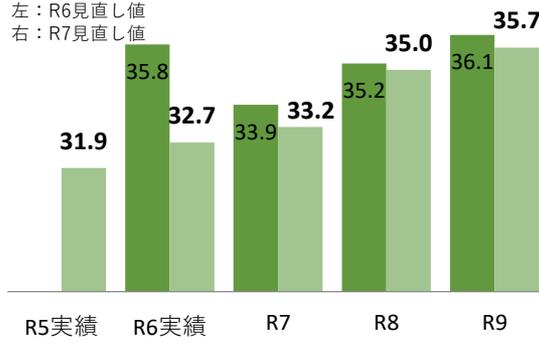
左：R6見直し値
右：R7見直し値



- 職員のベースアップなど処遇改善を図るために人件費は大幅に増加傾向。
- 職員削減を実施したものの、ベースアップは継続すると見込み、R9では年間2%の給与単価増を想定。

材料費（税抜き）（億円）

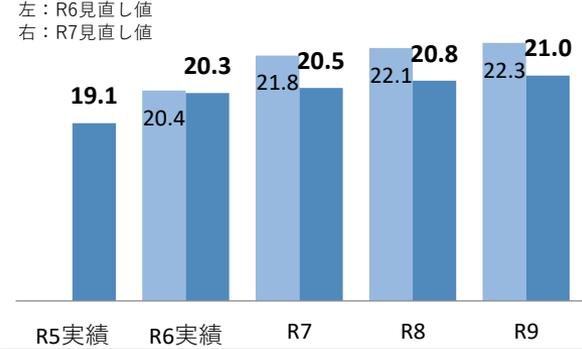
左：R6見直し値
右：R7見直し値



- 血管外科新設や高額薬剤の使用増により増加傾向ではある。
- 院内でDPCに包括される投薬注射等の見直しにより、費用の抑制の取組を継続していく。

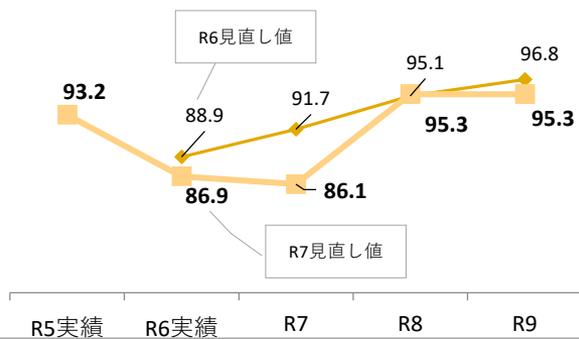
経費（税抜き）（億円）

左：R6見直し値
右：R7見直し値



- 物価高騰や労務単価の上昇により委託料などの増が継続すると見込まれる。
- 委託料の削減の取組により、R7に大きく削減できた。
- 引き続き費用の削減に取り組むことで、年間1%程度の増加に抑える。

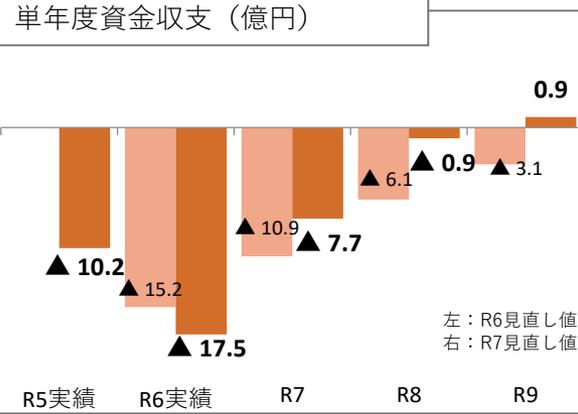
経常収支比率（%）



- 病院事業収益から特別利益を除いた経常収益と、病院事業費用から特別損失を除いた経常費用の比率である経常収支比率。
- 医業収益の減と費用の増を踏まえ下方修正する。

単年度資金収支（億円）

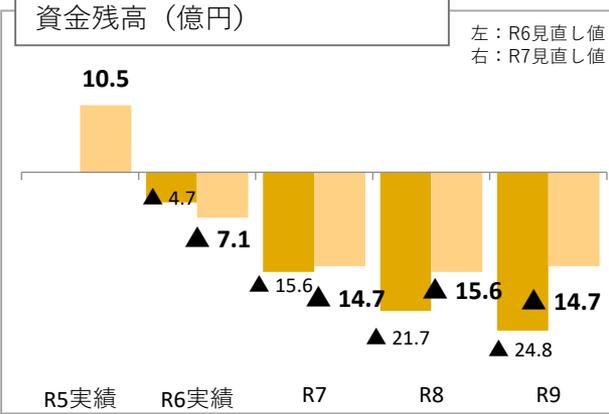
左：R6見直し値
右：R7見直し値



- 入院患者数の増や費用削減の努力により赤字額圧縮に努める。
- さらに経営改善推進事業債を活用することでR9は一時的に黒字化。

資金残高（億円）

左：R6見直し値
右：R7見直し値



- R9まで経営改善推進事業債により資金の減少を食い止めることができるが、体質が変わらなければ、厳しい経営状況は変わらない。